

これ以外にも、いろいろなサイトがありますが、例えば日経 BP 社が提供する「Biz Tech」の中国チャンネルもビジネス関連の最新動向速報を配信しています。このサイトは、さまざまなニュースソースから、記事が集められています。

Webサイトを毎日チェックしていたのでは、時間がいくらあっても足りません。「人民網日文版」はメールマガジンを発行しています。配信されたメールから、トピックと概要を読んで、サイトにアクセスするかどうかの判断をするのに役立っています。

ここで注意しておきたいのが、どのメールアドレスに配信させるかということです。一つのアドレスだけで処理する場合、メールソフトで仕分け設定をするなど、受信したメールを整理、管理しないと、すぐに、メールがたまってしまいます。特に、日刊ペースで配信されてくるタイプのものは、読まなくなる、読む気がなくなることもあるので、要注意です。メールマガジンをたくさん登録しても、多くのメーリングリストに参加しても、結局は、未読のままでは意味がありません。

筆者の場合、複数のメールアドレスを活用しています。無料のWebメールを利用し、メールマガジンの配信先アドレスとして登録しておきます(場合によっては、無料のWebメールを配信先に指定できないこともあります)。こうすることで、どこからでも情報を見ることができるようになっています。Webメールは容量が限られているので、必要なものは、個人用のメールアドレスに転送し、それ以外はどんどん削除しています。

最後になりましたが、メールマガジンにしる、Webメールにしる、有料無料の区別は当然としても、しっかりと内容を吟味し、注意書きや但し書きを確認して、使用することを忘れないで下さい。

CNNIC <http://www.cnnic.net.cn/>

人民網日文版 <http://j.people.ne.jp/home.html>

人民網日本版 <http://japan.people.com.cn/>

人民網 <http://www.people.com.cn/>

北京週報日文版 <http://www.pekinshuho.com/>

北京週報 <http://www.beijingreview.com.cn/>

人民中国 <http://peopleschina.com/index.shtml>

Biz Tech中国チャンネル

<http://biztech.nikkeibp.co.jp/biztech/china/>
中国国際放送局北京放送

<http://japanese.cri.com.cn/>

Radio 4 U 日本語放送

<http://online.cri.com.cn/radio4u/japanese.html>

Radio 4 U 中国語放送

<http://online.cri.com.cn/radio4u/standard.html>

中国中央電視台 <http://www.cctv.com>

(吉川 剛)

編集後記

「語研ニュース」第10号をお届けします。21世紀になっても明るい未来は見え、2003年でもまたイラク戦争ではじまり、戦争後も情勢は悪化するばかりです。「力」の論理では平和がもたらされないことは明らかです。何よりも重要なのはコミュニケーションであり、「力」の論理はそのコミュニケーションの放棄であると言えるでしょう。コミュニケーションを支えるのは言葉です。外国語学習の目標は当該外国語の運用能力を身に付けることですが、それはコミュニケーションによる相互理解の可能性を広げることであると言えるのではないのでしょうか。以上は、まもなく2003年を終えるに当たっての雑感です。(MT)